



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空と子ども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

松居直氏のメッセージ ②

2012年8月・民話絵本が完成



民話絵本の完成に寄せて

その地方の土地言葉（方言）が失われることは、地域社会のくらしや伝統文化が失われ、住民の気分の豊かさやぬくもりや特質が失われ、日常生活が貧しくなります。そして過去と現在が見失われ、未来も養われなくなります。

今とても大切なことは、「にほんご」の中で土地言葉と文化を生かして次の世代へと伝えることです。そのことが日常生活だけでなく、教育でも課題とされること望まれます。

その意味でこの絵本を小松市教育委員会が企画、編集され出版されたことは、まことに先見性のある問題提起として注目すべきことです。

この物語は、「いつ、どこで、たれが、なにを、どうして、どうなったか」を完全に語り、「おすび」も見事です。しかも昔話の極意ともいべき不思議が、伸び伸

びと自然に語りつくされています。またこの文章を声に出して音読すると、読み手の心深く言葉に対する感性がよみがえり、更に聞き手にも声の文化の貴重な言葉体験が伝承されます。

文章のなかにきめ細かくいかさされていく「なまりことば」の魅力が、挿絵の表現にも感じられ、画面に描かれた自然や人物から物語を生き生きと感じ読みとることが出来ます。とりわけ背景の自然から読みとれる静と美の奥深い質感は、この昔話絵本の印象を忘れえぬものにしていきます。

この絵本が各家庭や保育の場、そして学校で読み語られ、子どもたちが土地言葉の魅力に眼覚めて、自分たちのくらしがゆたかな広がりや奥行きのあるものだということに、心動かされることを願って止みません。

松居 直

これは昔話絵本の傑作です。

◆今日までに、5冊の小松の民話絵本が完成・発刊（会報第70号参照）

◆さて「2016年」のメッセージは、会報第12号をご覧ください。

◆なお、松居直氏の「空と子ども絵本館開設10周年に寄

民話絵本のあとがきより

◆親と子が、一冊の絵本を共に読み、想像を広げる。そのための場として、空と子ども絵本館は生まれました。昭和初期に建てられた警察署と銀行とが、80年のときを経て、絵本館と絵本館ホールに生まれ変わったのです◆開館を翌日に控えた日、ホール前の植え込みに一人の女性が腰を下ろしていました。近くのパス停でバスを待つ短い時間を、ホール前の草をむしって過ごしていたという人です。「通るたんびに、いつも気になっただこの場所が、また生き返らんやねえ。よかったあ」◆開館後まもなく、今度は男性に声をかけられました。小松には、たくさんの民話が残っている。が、残念なことに、それらを覚えている人は少ない。代々語り伝えられてきた民話を、確実に子どもたちに残していく務めを、絵本館は果たしてくれるのか…。まっすぐに向けられ



た視線は強く、民話への深い思いがこめられていました◆小松は、長い年月をかけて作り上げた文化を持つ町です。そして、その文化を次の世代に伝えることを大切にしている町です。それは、簡単なことではありません。古い建物を壊さずに保存し、通りすがりの人が草をむしって美観を保つ。あるいはまた、遠い昔に聞かされた物語を、今度は自分が子どもたちに語って聞かせる。伝統や文化は、そうした日々を積み重ねることによってのみ受け継がれていくものなのでしょう◆絵本館の顧問であり、数々のすぐれた絵本の生みの親でもある松居直氏の助言を受け、長年にわたって民話を集めた「青垣」の方たちに励まされて、この絵本はできあがりました。支えてくださった多くの方々に感謝するとともに、若い画家によって描かれた世界が、文化継承の流れのひとつとなることを願っています。空と子ども絵本館 館長 尾木沢 響子